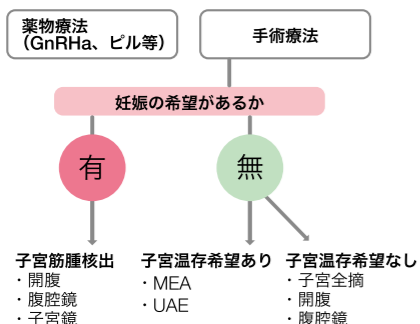


## 「自分で決める」病気の治し方

当院では、子宮筋腫や子宮内膜症などの良性婦人科疾患において、患者様ひとりひとりのライフスタイルを第一に考えた、負担の少ない治療法を提案し、相談により治療法を決定していきます。

### 子宮筋腫の治療



### MEA (マイクロ波子宮内膜アブレーション)

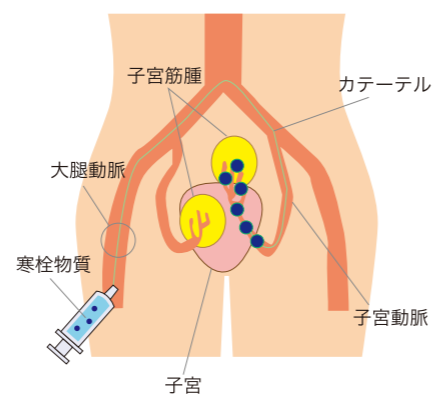
子宮内にマイクロ波アブレーターを挿入し、内膜を焼灼することで過多月経を改善することができます。子宮を残したい、長く入院するのは難しい方などにお勧めです。保険適応、入院期間は1泊2日です。

### 腹腔鏡下手術

腹腔鏡下手術はお腹に5~10mmの穴を開けて行います。細いカメラや鉗子を用い、モニター画面を確認しながら進行します。傷も小さく、術後の疼痛が少ないなどのメリットがあります。

### UAE (子宮動脈塞栓術)

UAEは細い管を足の付け根から挿入し、子宮筋腫を栄養する血管をふさぎます。筋腫への血液の流れを止めることで筋腫を小さくし症状を改善します。この治療で8~9割の症状が改善します。保険が適応されます。



体の状態と将来の妊娠・出産プランを考えた治療法を提案します。  
患者様のライフスタイルを優先させた治療法と一緒に考え決定のお手伝いをします。

**婦人科にてご相談ください。**

## EVENTS REPORT

### 〈第4回〉母子栄養懇話会 学術集会

2017年6月10日(土) 跡見学園女子大学 文京キャンパス ATOMI ブロッサムホール

#### 6月10日(土)に跡見学園女子大学 文京キャンパスにて開催された母子栄養懇話会



主催はNPO法人母子栄養懇話会で、臨床に携わる管理栄養士・栄養士や助産師・看護師、医師らとともに、周産期栄養の向上、さらには次世代の栄養状態の向上に寄与することを目的として設立され、学術集会を開催しています。第4回となる今年は、「低出生体重児を防ぐための栄養管理と連携を考える」をテーマに、当院院長 佐藤雄一が会長を務めました。近年わが国での平均出生体重の減少や低出生体重児の割合の増加は、出生後の予後や死亡率に影響するだけでなく、将来の生活習慣病発症のリスクを高めると考えられており、その現状を改善することが我が国の予防医療の観点において非常に重要です。当院からは、会長講演の他、助産師が「当院における低出生体重児を取り巻く関連要因と期待される保健指導の検討」を一般演題発表させていただきました。出生体重を増加させるための健康支援や栄養課題、現場の取り組みなどをたくさん聞くことができました。



#### 佐藤院長の会長講演

#### 「低出生体重児減少のために今できること ~プレコンセプションケアについて~(概要)」

低出生体重児の割合が増えている原因のひとつに、女性の体格が細身になっていることや、妊娠中の体重増加が抑えられている傾向にあることなどが考えられている。20~30歳代の女性においてはスリム志向のためBMIが右肩さがりとなっており、平成27年国民健康栄養調査では、やせの割合が22.3%となっている。20歳代の女性のエネルギー摂取量は約1700kcal/日前後と、必要エネルギー量1950kcal/日に遠く及ばない状況である。当院の検討では、やせ妊婦の場合、妊娠中の体重増加が基準内であっても、生まれてくる児の平均出生体重が小さいことがわかった。妊娠前の女性の健康状態を向上させるための取り組み(プレコンセプションケア)の必要性を広めていきたい。

